

三好市「旧東祖谷山村」の神社祭礼

民俗班（徳島民俗学会）

高橋 晋一*

要旨： 旧東祖谷山村の神社祭礼の特色は、以下の6点に集約される。1) 原則として旧暦で行われる、2) 多くの地域で春・夏・秋の年三回祭りが行われる、3) 祭りに先立ち神霊を当家の家に迎え奉齋し、翌日当家宅から神社に「お渡り」をする習俗が見られる、4) 当家の家に「オハケ」を立てる習俗が見られる、5) 祭りの「祝祭」部分は簡素で、神輿やだんじりが出る祭りはごく少数である、6) 春祭りを中心として「百手」の行事が見られる。県内他地域の祭りに比べると、旧東祖谷山村の祭りの姿は総じて簡素ではあるが、その分、当家祭祀を核とする氏神祭祀の古い形（神祭りの本質につながる部分）をよく残していると言することができる。

キーワード： 祭礼、氏神、当家、オハケ、百手

1. はじめに

本稿の目的は、三好市旧東祖谷山村の神社祭礼の概要を報告するとともに、同地域の祭礼の特色を指摘することにある。本稿では、まず旧東祖谷山村の神社祭礼の概略を示した上で、当地の代表的な祭礼の事例（落合の三処神社祭礼）を紹介、最後に各地区の祭礼の事例をふまえつつ、旧東祖谷山村の祭礼の特色を整理・検討したい。

2. 旧東祖谷山村の神社祭礼の概要

表1に、旧東祖谷山村の神社祭礼の概要を示した。村内各地の神社祭礼の形態はほぼ共通している。それは、宵宮の日に神社から当家（祭りの当番）の家に神霊を移し、当家宅の祭壇で神霊を奉齋、翌日（本祭）当家の家から行列を組んで神社まで「お渡り」をし、神霊を本殿に還し、神事を行うというものである。この基本形の上に神輿・だんじり・お練り・百手などの付帯要素が加わり、地区ごとの祭りの多様性が生み出されている。

3. 祭りの事例

ここでは旧東祖谷山村の祭礼の代表例として、伝統的な当家祭祀に加え、現在も神輿・だんじり・お練りなどが出てにぎわう落合三処神社の秋祭り¹⁾の概要を報告する。

落合の戸数は、2006年現在70戸。旧東祖谷山村の他地区と同様、過疎・高齢化・少子化の傾向が著しい。落合の氏神・三処神社は、集落中ほどの高台（落合175番地）にある。旧村社。祭神は天児屋根命・天太玉命・龍王大明神。文化12年（1815）の『阿波志』に「三所祠、祖山落合名にあり延宝5年（1677）置く」とある。境内社に聖神社がある²⁾。

三処神社の祭りは、旧暦3月5日（春祭り）、旧暦6月8日（夏祭り）、旧暦8月5日（秋祭り＝例祭）の年3回（2006年の調査時は、それぞれ新暦4月2日、7月3日、9月26日）。春祭りは三処神社の神輿とだんじり、夏祭りは百手、秋祭りは聖神社の神輿とだんじりが出る。だんじりは三処神社・聖神社共用である。百手は本来春祭りに行うものであ

* 徳島大学総合科学部

表1 三好市旧東祖谷山村 神社祭礼一覧

No.	神社名	所在地	祭礼1 (春祭)	祭礼2 (夏祭)	祭礼3 (秋祭)	備考
1	十二社神社 (三宝神社)	三好市東祖谷菅生152		旧6月12日(百手)[現在新7月第2日曜]	祭礼3 (秋祭)	平成18年度より祭日変更
2	鍛神社	三好市東祖谷菅生201	新5月1日お山開き祭(神輿)	旧8月17日[現在新7月17日](神輿)		旧郷社
3	西島神社	三好市東祖谷菅生202		旧8月17日[現在新7月17日]		
4	美豆山神社	三好市東祖谷菅生190(名頃)	新4月15日			
5	八幡神社	三好市東祖谷菅生48	旧2月9日[現在新3月第2日曜]		旧8月15日(百手)[現在新9月第3日曜]	平成17年度より祭日変更
6	五社神社	三好市東祖谷菅生269	旧3月14日(百手)			平成19年度より祭日変更予定
7	十二所神社	三好市東祖谷久保527				旧村社
8	三上神社	三好市東祖谷久保890-2		旧6月5日(百手)		
9	五社神社	三好市東祖谷久保724-2		旧6月6日		
10	鳥越神社	三好市東祖谷久保6		旧6月15日[現在休止]		オハケ(御幣15本)
11	三休神社	三好市東祖谷西山401	旧3月15日(神輿, だんじり)-現在 休止, 百手	旧6月7日(百手)		
12	八坂神社	三好市東祖谷中上46	旧2月7日(百手)	旧6月7日		
13	三廻神社(聖神社)	三好市東祖谷落合175	旧3月5日(神輿, だんじり, お練り)	旧6月8日(百手)	旧8月5日(神輿, だんじり, お練り)	旧村社, オハケ(御幣12本, 閏年13本)
14	大神社	三好市東祖谷落合469	旧3月11日	旧6月11日	旧9月11日	
15	住吉神社	三好市東祖谷興ノ井72	旧6月16日			
16	八幡神社	三好市東祖谷栗枝渡144	旧2月15日	旧6月16日	旧8月15日(神輿, だんじり, お練り)	旧村社, オハケ(御幣6本)
17	黒岡神社	三好市東祖谷下瀬77	旧2月16日	旧6月16日	旧8月16日	旧村社, オハケ(御幣6本)
18	三宝神社	三好市東祖谷釜ヶ谷7	旧3月4日	旧6月4日	旧8月4日	
19	武八幡神社(七人塚)	三好市東祖谷釜ヶ谷	旧2月17日	旧6月17日		
20	若宮神社	三好市東祖谷京上107	旧2月17日	旧6月17日		
21	大原神社	三好市東祖谷京上127	旧3月18日	旧6月18日		
22	成之宮神社	三好市東祖谷京上113	旧3月17日	旧6月17日	旧8月17日	
23	鉦神社	三好市東祖谷大枝45	旧3月18日[現在休止]	旧6月18日[現在休止]	旧8月18日	
24	御崎神社	三好市東祖谷大枝359	旧3月18日[現在休止]	旧6月18日		
25	天満神社	三好市東祖谷大枝386-3	旧3月25日			
26	石鏡尺毛神社	三好市東祖谷若林125	旧2月17日(百手)	旧6月17日	旧9月17日	オハケ
27	三社神社(天満神宮)	三好市東祖谷麦生土33-2	旧3月4日(百手)	旧6月4日	旧8月4日	オハケ(御幣5本)
28	鎌宮神社	三好市東祖谷阿佐206	旧3月6日	旧6月6日	旧8月6日	百手なし, オハケ(御幣5本)
29	馬岡五社神社	三好市東祖谷古味5	旧8月8日			百手なし, オハケ(御幣5本)
30	八坂神社	三好市東祖谷古味	旧6月7日			
31	三宝神社	三好市東祖谷壱尾357	旧3月4日			百手なし, オハケ(御幣5本)
32	白雲神社	三好市東祖谷壱尾357	旧3月5日		旧10月10日[現在新10月18日]	百手なし, オハケ(御幣5本)
33	白山神社	三好市東祖谷小川160	旧3月5日		旧8月5日	百手なし, オハケ(御幣5本)
34	新田神社	三好市東祖谷新居屋35	旧3月3日	旧6月15日	旧9月15日	百手なし, オハケ(御幣5本)
35	十二所神社	三好市東祖谷元井96	旧3月2日			
36	牛頭神社	三好市東祖谷元井12	旧4月3日[現在新5月3日]			
37	新田神社	三好市東祖谷大西14	旧3月4日	旧6月4日[現在休止]	旧9月4日	
38	神明神社	三好市東祖谷大西14	旧3月4日	旧6月4日[現在休止]	旧9月4日	
39	笠松神社	三好市東祖谷大西14	旧3月4日	旧6月4日[現在休止]	旧9月4日	
40	若宮八幡神社	三好市東祖谷和田31	旧3月3日	旧6月3日	旧9月3日	
41	五社神社(初志神社)	三好市東祖谷釣井170	旧3月3日	旧6月3日	旧9月3日	
42	三所神社	三好市東祖谷釣井253	旧3月2日(神輿, だんじり)-現在 休止[現在新5月連休中]	旧6月2日	旧9月2日	
43	新田神社(金刀比羅神社)	三好市東祖谷小島54	旧3月3日			百手昭和20年頃休止, オハケ昭和50年頃休止
44	新田神社(若宮神社)	三好市東祖谷小島208-5(里ノ江)	旧3月3日			
45	新田神社(金刀比羅神社)	三好市東祖谷高野61	旧3月27日	旧10月10日[現在新10月10日]	旧10月10日	春祭の百手休止, オハケ約20年前に休止
46	三宝神社	三好市東祖谷今井8	旧3月9日[現在休止]	旧6月19日[現在休止]	旧9月19日[現在休止]	秋祭の百手休止
47	新田神社	三好市東祖谷小島260-3(佐野)	旧3月27日[現在休止]			平成14年頃より祭礼休止

るが、落合では春祭りに神輿・だんじりが出るので、百手は時期をずらして夏祭りに行っている。

神社総代は12名。祭りの運営に当たる「当家組」は奥、下村上組、下村下組、中村、上村、西中の6つからなり、順番に回ってくる。当家組の中の1軒が当家（祭りの総責任者）を務める。

宵宮の日の朝、当家の家の軒先に「オハケ」1本を立てる（写真1）。オハケは長さ5～6mの竹竿の先にワラボテをくくりつけ、御幣ごへいを12本挿したもので³⁾、神霊よりしろの依代（神が依り付く象徴）とされる⁴⁾。オハケは、当家宅に神を迎えることを意味している。

宵宮の日の夕方、三処神社から当家の家に神霊を遷す。神職が本殿から神霊を御幣ごへいに遷し、その後、露払い、御幣（当家が捧持する）、金幣きんべい、太鼓たたき、幟持ち（5本）、神職、その他の氏子の順に行列を作って当家の家まで進む。現在は、神社から距離がある場合は車で移動している。



写真1 当家宅のオハケ

当家宅の床の間の祭壇に御幣・金幣を奉齋して神事を行った後、当家組の人々で酒食（煮染め、寿司、そばなど）をとる⁵⁾。これは神人共食を意味するものと考えられる。戦前まで、宵宮の晩は「当家籠もり」と称して氏子が当家宅にお籠もりをしていたと

いうが、これは、それだけ当家宅での神霊祭祀が重視されていたことの証左である。かつては米こうじに小麦を入れて白酒（一夜づくりの甘酒）を造り、祭りの際に供えて飲んだ。現在は市販の甘酒を買ってきて、当家の家で振る舞ったり、神社にお参りに来た人に振る舞ったりする。

翌日は本祭。昼前から当家の家に当家組の人々が集まり、酒食をとる。14時頃より御幣（神霊）を祀った祭壇の前で神事を行い（写真2）、その後、前日と同様に行列を組んで神社に向かう（写真3）。神霊が当家宅から神社に移動するわけで、これを「お渡り」と呼ぶ。



写真2 当家宅での神事



写真3 当家宅から神社へのお渡り

神社到着後、御幣を納め（すなわち神霊を神社に還し）、拝殿で神事を行う。その後、お旅（神輿の御旅所渡御）の準備をする。

16時から神輿が出る。先にだんじり（写真4）を神社の西約100mのところにある御旅所まで引いていく。だんじりの上では打ち子5名が楽を奏し続ける。鳴り物は大太鼓1、小太鼓2、鉦2。打ち子は小学校1～6年生の男子が務める。男子の数が足りないときは村内他地区から子供を借りてくる。これまで女子がだんじりに乗ったことはない。打ち子は顔に白粉を塗り、墨でひげを描き、華やかな着物を着る。



写真4 だんじり

続いて、お練り（写真5）が天狗（猿田彦）、箱かたぎ2、棒振り2、長刀2、毛槍4の順に出発。その後に子供神輿、神輿（4人がき）、御幣を捧持した当家、神職、一般氏子が続く。神輿を御旅所に据え置き、神事を行う。小休止の後、一行は神社に戻り、神輿がお入りして祭りは終了する。



写真5 お練り

夏祭りには神輿・だんじりは出ないが、百手の行事がある。百手の的は大中小の3種類がある。的の中央に「鬼」の文字を墨書し、その上を黒く丸く塗りつぶす。昔は射手は羽織袴姿であったが、現在は普段着である。射手はかつて6名であったが、現在は3、4名。的に命中すると太鼓をたたく。昔は矢を捨てる子供がいた。手元のすべての矢を打ち終わると太鼓をたたき、その間に子供が矢を捨てた。矢は畑に挿しておくと言われ、氏子が持ち帰る。

旧東祖谷山村内で、三処神社の秋祭りに匹敵する規模の祭りが、栗枝渡の八幡神社秋祭り（旧暦8月15日）である⁶⁾。祭りの形態は落合とはほぼ同様。宵宮の日の夕方、神霊（御幣）を当家宅の祭壇に奉齋。翌日（本祭）の午後、神霊（御幣）を捧持して行列を組んで神社に向かい、本殿に神霊を還し、神事を行う。その後、お練り・神輿・だんじりが神社の100mあまり東にある御旅所を往復する（写真6）。だんじりの打ち子は5名（大太鼓1、小太鼓2、鉦2）。お練りの構成は天狗（猿田彦）、棒振り2、長刀2、毛槍12、神輿（4人がき）、御幣、金幣、一般氏子の順。神輿がお入りした後、拝殿で直会となる。



写真6 栗枝渡八幡神社祭礼

4. 旧東祖谷山村の神社祭礼の特色

前章で紹介した落合の三処神社の祭礼にも表れているが、旧東祖谷山村の神社祭礼の特色は、以下のような点にある。

- 1) 原則として旧暦で行われる。
- 2) 多くの地域で春・夏・秋の年三回祭りが行われる。

- 3) 祭りに先立ち神霊を当家の家に迎え奉齋し、翌日当家宅から神社に「お渡り」をする習俗が見られる。
 - 4) 当家の家に「オハケ」を立てる習俗が見られる。
 - 5) 祭りの「祝祭」部分は簡素で、神輿やだんじりが出る祭りはごく少数である。
 - 6) 春祭りを中心として「百手」の行事が見られる。
- 以下、それぞれの特色について簡単に説明を加えておく。

1) 原則として旧暦で行われる。

県内でも、とくに戦後は、ほとんどすべての地域で祭礼は新暦に基づいて行われるようになった。しかし旧東祖谷山村では、現在もほとんどの地区で伝統的な旧暦（太陰暦）に基づいて祭礼が行われている。しかし次第に地区の若年層人口の流出、生業の多様化（サラリーマン化）が進み、人が集まりやすいように祭礼日を新暦に変更したり、土曜日に変更する地域も一部に出てきている。なお、過疎にともない、年3回の祭りの回数を減らしたり、休止したりした地区もある（表1）。

2) 多くの地域で春・夏・秋の年三回祭りが行われる。

旧東祖谷山村の祭りは、春・夏・秋の年三回行われるところが多い。多くの場合秋が例祭（大祭）で、春、夏の祭り（例祭以外のコマツリ）はオモウシと呼ばれる。しかし実際には、神輿・お練り・だんじりが出る地区以外は、例祭もオモウシも祭りの内容はまったく同じである（先述した「基本形」）。

3) 祭りに先立ち神霊を当家の家に迎え奉齋し、翌日当家宅から神社に「お渡り」をする習俗が見られる。

現在、多くの神社祭礼では、もっぱら神社を中心として行事が展開するが、当家の家に神を迎え、奉齋し、そこから神社に「お渡り」するのが祭りの古い形であった⁷⁾。旧東祖谷山村では、こうした当家祭祀を中心とする伝統的な神祭りの形が現在もなお残されている。県内では現在、祖谷地方を除きこうした習俗は見られない。

4) 当家の家に「オハケ」を立てる習俗が見られる。

「オハケ」は神霊の依代である。近畿地方を中心と

して、祭りに先立ち当家の軒先や神社の境内などにオハケを立てる習俗が見られるが、徳島県内で現在オハケが見られるのは、旧東祖谷山村を除けば3カ所しかない⁸⁾。旧東祖谷山村では現在6カ所、以前はさらに多くの地区でオハケが立てられていた。当家祭祀の残存とともに、注目すべき習俗と言える。

5) 祭りの「祝祭」部分は簡素で、神輿やだんじりが出る祭りはごく少数である。

県内では集落（神社）の数だけ神輿・だんじりがある感があるが、旧東祖谷山村では表1に見るように、神輿やだんじりが出る祭りは少ない。これは集落の人口規模にも関係するが、多くの地域で、神輿やだんじりが登場する以前（近世以前）の古い素朴な神祭り—伝統的な当家での行事に重点を置く祭り—の姿が受け継がれてきたものと考えられることができる。

6) 春祭りを中心として「百手」の行事が見られる。

現在は休止しているところも少なくないが、旧東祖谷山村の多くの地区で、春祭りを中心として「百手」と呼ばれる弓矢の神事が行われてきた（写真7）。百手とは、年の初めに弓矢で的を射て一年の豊作・平穏な生活を祈念する行事である。香川県から徳島県西部にかけて分布が密であり、旧東祖谷山村も「百手文化圏」の一部をなす。

かつて、百手は氏子の中から選出された射手が正装をし、厳格な作法に基づいて行われていたが⁹⁾、戦後簡略化が進み、とくに過疎化が進んだ現在では、祭りの場に居合わせた人が普段着で適当に矢を射る形に変わっている地区が多い。



写真7 菅生八幡神社の百手（写真提供＝西万太郎氏）

5. おわりに

前章で確認したように、旧東祖谷山村の神社祭礼には県内他地域の祭りに見られない要素が多々見られる。これは、祭りの「近代化」の中で失われていった古い要素が、旧東祖谷山村では変化することなく残存していることを意味している。とくに注目すべきは、当家祭祀を核とした神祭りに祭りの中心が置かれていることである。神輿・だんじり・お練りという要素は、近世以降、当家祭祀を核とする伝統的な神まつりの「基本形」の上に新たに付け加わったものと考えられる。旧東祖谷山村の祭りは表面的には決して華やかなものではないが、この「基本形」の部分にこそ日本の神祭りの原型が残っているのであり、その点で旧東祖谷山村の祭礼は、貴重な民俗と言えるのである。

注

- 1) 落合三処神社祭礼については、ひがしいやの民俗編集委員会(1990):94~95頁, 俵(1993):149~152頁に簡単な記述と写真がある。
- 2) 徳島県神社庁教化委員会(1981):386頁。
- 3) 地区によって、オハケのワラボテに挿す御幣の数は異なる(表1を参照)。
- 4) 原田(1932):124頁。
- 5) 最近は当家の負担, 手間のことを考え, 公民館で食事を用意する地区が増えてきた。ただしその場合でも, 神霊を当家宅に遷し奉齋した後, 神社に還すというプロセスには変わらない。
- 6) 栗枝渡八幡神社祭礼については, 東祖谷山村誌編集委員会編(1978):768~770頁, ひがしいやの民俗編集委員会(1990):86~88頁, 俵(1993):134~139頁に記述がある。
- 7) 原田(1931):129~133頁。しかし原田は, より古い時代には1年間にわたり当家宅で神霊の祭祀が行われていたと考えられており, 当家での神霊祭祀の短縮化という点から論を進めている。
- 8) 金刀比羅神社(徳島市川内町), 八幡神社(美波町西由岐), 正八幡神社(阿南市吉井町)の3社。旧東祖谷山村のオハケについては, 武田(1955):73頁に榎尾地区の事例の記述がある。
- 9) ひがしいやの民俗編集委員会(1990):91~92頁。

文 献

- 武田明(1955):『祖谷山民俗誌』古今書院。
- 俵裕(1993):『秘境と落人の里祖谷 函説民俗誌』徳島県出版文化協会。
- 徳島県神社庁教化委員会編(1981):『徳島県神社誌』徳島県神社庁。
- 原田敏明(1942):「当屋に於ける氏神奉齋」『帝国学士院紀事』1-1, 127~145頁。
- 原田敏明(1943):「『オハケ』奉齋の形式とその変遷」『帝国学士院紀事』2-1, 99~121頁。
- 東祖谷山村誌編集委員会編(1978):『東祖谷山村誌』東祖谷山村誌編集委員会。
- ひがしいやの民俗編集委員会(1990):『ひがしいやの民俗』東祖谷山村教育委員会。